

近藤 卓（こんどう たく）

東海大学文学部心理・社会学科教授

略歴 1948年生まれ。東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学。専門は健康教育論、臨床心理学。臨床心理士、学術博士。高等学校教諭、中学校・高等学校カウンセラー、ロンドン大学精神医学教室客員研究員、群馬大学、立教大学などの講師の後、東海大学に勤務。子どもといのちの教育研究会会長、日本学校メンタルヘルス学会理事、日本学校保健学会理事。

本や論文を読んだり調査データを集めては、文章を書いたり人前で話をしたりするのが好き。その一方、車、飛行機、ラジオ、アンプ、無線機、カメラなどの動くモノや機械モノ、ギター、ピアノ、コントラバスなどの音の出るモノが好きで、これらがあれば何時間でも一人遊びをしている。一人遊びに飽きると、メメ（ラブラドール・レトリバー、15歳）と戯れている。

主な著書 『PTG 心的外傷後成長』金子書房 2012年、『二十歳までに考えておきたい12のこと』大修館書店 2012年、『自尊感情と共有体験の心理学』金子書房 2010年、『死んだ金魚をトイレに流すな』集英社新書 2009年、『いのちの教育の理論と実践』（編著）金子書房 2007年、『「いのち」の大切さがわかる子に』PHP研究所 2005年、『パーソナリティと心理学』（編著）大修館書店 2004年、『いのちの教育』（編著）実業之日本社 2003年、『いのちを学ぶ・いのちを教える』大修館書店 2002年 他多数。

【執筆協力者】

望月美紗子（もちづき みさこ） 執筆担当：3章④

東海大学大学院文学研究科博士課程前期

九鬼 種乃（くき しなの） 執筆担当：3章⑤

東海大学文学部心理・社会学科学部4年